

## キャンパス福音の交わり(2)

### 啓示録 6:1~8

啓示録は聖書の最後の書であり、全聖書、神聖な啓示全体の結論、完成、成就です。神聖な啓示の真理の大部分の種は、聖書の最初の書である創世記でまかれました。これらの種のすべての成長は、続く書で、特に新約の各書で次第に発展し、その収穫は、啓示録で刈り取られます。

本書の啓示は、おもに「しるし」、すなわち霊的意義を持つ象徴から成っています。例えば、諸召会を象徴する七つの燭台、召会の使者たちを象徴する七つの星などです。新エルサレムでさえ、神のエコノミーの究極的完成を象徴する一つのしるしです。ですから、本書はしるしの書であり、しるしを通して、啓示が私たちに知らされます。

ヨハネによる福音書は、どのようにキリストが来て私たちの命となり、彼の花嫁である召会を生み出されるかを象徴するしるしの書です。ヨハネの啓示録は、どのように今キリストが召会を顧みておられるか、またどのように彼が来て地を裁き、地を占有し、彼の花嫁である召会を、神の全きエコノミーへもたらされるかを示すしるしの書です。(啓示録 1:1 のFNより)

6:1 小羊が七つの封印の一つを開いた時、私が見ていると、四つの生き物の一つが雷のような声で、「来たれ」と言うのを聞いた。

2 そして見ていると、見よ、白い馬があり、それに乗っている者は弓を持っていた。そして冠が彼に与えられた。彼は出て行って勝利を得た。そして、さらに勝利を得る。

3 小羊が第二の封印を開いた時、第二の生き物が「来たれ」と言うのを、私は聞いた。

4 見ていると、見よ、別の赤い馬が出て来た。それに乗っている者には、地上から平和を奪い取り、人々が互いに殺し合うための権威が与えられた。また彼に大きな剣が与えられた。

5 小羊が第三の封印を開いた時、第三の生き物が「来たれ」と言うのを、私は聞いた。見ていると、見よ、黒い馬であった。それに乗っている者は、手に秤を持っていた。

6 また私は、四つの生き物の間で声のようなものが、こう言うのを聞いた。「一デナリで小麦一コイニクス、一デナリで大麦三コイニクス、油とぶどう酒を損なうな」。

7 小羊が第四の封印を開いた時、第四の生き物の声が「来たれ」と言うのを、私は聞いた。

8 見ていると、見よ、青白い馬であった。それに乗っている者の名は「死」である。そしてハデス[陰府]が彼に従った。また、地の四分の一に対して剣、飢きん、死をもって、また地の獣によって殺す権威が、彼らに与えられた。

1 節 FN「開いた時」:小羊による七つの封印の開封は、キリストの昇天の直後に起りました。キリストは受肉、十字架、復活を通して、昇天において、神のエコノミーの奥義を開く資格を十分に与えられました。神のエコノミーの奥義は、七つの封印の中にあります。

2 節 FN「白い馬」:白は、清潔、純粹、公義、是認を象徴します。白い馬は福音の宣べ伝えの象徴であり、それは清潔、純粹、公義であって、人にも神にも良しとされます。

2 節 FN「馬に乗っている者」:最初の四つの封印は、四頭の馬の競争のように、それぞれ騎手を乗せた四頭の馬から成っています。四人の騎手は実際の人ではなく、人格化されたものです。明らかに、第二の馬、赤い馬の騎手は戦争、第三の馬、黒い馬の騎手は飢きん、第四の馬、青白い馬の騎手は死です。歴史的事実によれば、第一の馬、白い馬の騎手は、福音であるに違いありません。キリストの昇天の直後、これら四つのもの一福音、戦争、飢きん、死は、四頭の馬に乗った騎手のように競争を始めました。そしてこの競争は、キリストの再来まで続きます。第一世紀に始まって、福音はこの二十世紀を通じて拡張し続けてきました。人類の間で戦争も同時に進行してきました。戦争は常に飢きんを引き起こし、飢きんは死という結果になりました。これらすべての事は、この時代の終わりまで続きます。

2 節 FN「弓」:弓は矢をもって戦うためです。しかし、ここには弓があるだけで、矢がありません。これは、矢がすでに敵を滅ぼすために射られてしまったこと、そして平和の福音の継続のために、勝利が勝ち取られたことを示します。今や戦いは終わっています。そして平和の福音が、平和のうちに宣言されています。

2 節 FN「冠」:冠は栄光のしるしです。福音は、キリストの栄光を冠として与えられました。

2 節 FN「勝利」:あるいは、征服した、そしてさらに征服する。歴代にわたって、福音が宣べ伝えられるどの所でも、あらゆる反対と攻撃を征服し、それに勝利を得てきました。

4 節 FN「赤い馬」:ここの赤は、流血を象徴します。赤い馬は戦争が猛威を振るう象徴で、完全に流血の事柄です。

4 節 FN「地上から平和を奪い取り」:「地から平和を奪い取り、人々が互いに殺し合うための」、「彼に大きな剣が与えられた」は、すべて明らかに戦争を示しています。

5 節 FN「黒い馬」:ここの黒は飢きんを示し、飢えた人々の顔色を象徴します。黒い馬は飢きんの拡大の象徴であり、そのために顔色が黒くなります。

5 節 FN「秤」:秤は貴重な物を量るのに用いられます。しかし、ここでは食糧を量るのに用いられるので、食糧の欠乏を示しています。

6 節 FN「油とぶどう酒」:油とぶどう酒は、人の楽しみのためです。それらは、飢きんの時にはいつも不足し、貴重になります。飢きんの時、油とぶどう酒は大事に保存され、損なわれないようにすべきです。

8 節 FN「青白い馬」:あるいは、青ざめた。それは、病で打たれた人たちの顔色を象徴します。青ざめた馬は、死の殺しの象徴であり、青ざめた様相にします。

8 節 FN「ハデス[陰府]」:ハデスは、救われていない死者の魂が置かれている地下の場所であり、大いなる白い御座の裁きのために、彼らは復活の時までそこに拘留されています。この裁きの後、救われていない者は、永遠にわたって火の池に投げ込まれます。ハデスは一時的な拘置所、火の池は永久の刑務所のようなものです。死の後にこのハデスが続き、死が殺害した者をここに収容します。

8 節 FN「死」:あるいは、ペスト。

結論:赤い馬、黒い馬、青白い馬は、主役である白い馬を助ける脇役たちです。今、召会は福音の霊を燃やし、白い馬を加速させなければなりません。